

最新の映像イベントを裏で支える高性能PC

最新GPU搭載でクリエイターから支持

高解像度の静止画や動画を快適に編集し、高精細映像として配信するには、高速なCPUやGPU、大容量メモリーなど、最先端の技術や仕様を盛り込んだ高性能PCが求められる。最新の映像イベントでマウスコンピューターのクリエイター向けノートPC「DAIV」がどのように活用されているかを紹介する。



2021年7月16日から9月9日にかけて、大手町三井ホール（東京・千代田）で映像イベント「巨大映像で迫る五大絵師 一北斎・広重・宗達・光琳・若冲の世界」が開催されている（主催：フジアル、フジテレビジョン、BSフジ、ニッポン放送）。

葛飾北斎、歌川広重、俵屋宗達、尾形光琳、伊藤若冲といった、江戸時代を中心に活躍した5人の絵師の作品を、巨大スクリーンで鑑賞するデジタルアート展だ。巨大スクリーンは、正面幅25メートル、左右幅各10メートルの全長45メートル、高さ7メートルの3面ワイドで、通常なら肉眼では見るのが難しいような細部までを表現した、高精細な映像を映し出す。美しい映像と壮大な音楽を組み合わせた、これまでにない迫力の映像イベントだ。

葛飾北斎の浮世絵「神奈川沖浪裏」は、名所浮世絵揃物「富嶽三十六景」全46図中の1図。高く激しく渦巻く波にもまれた3艘（そう）の小舟と、はるかかなたの富士山を配した構図は、世界でも広く知られた北斎を代表する作品だ。

国宝「風神雷神図屏風」は、琳派だけでなく日本美術のイメージを象徴する俵屋宗達の傑作。風神と雷神の迫力あ

る映像をスクリーンの隅々まで映し出し、大音量の雷鳴と雨音が美しい映像を盛り上げる。

作品は全体像だけでなく部分ごとに拡大して映し出され、絵の具を塗る際の細かな筆遣いや、版画の刷り跡さえも見て取ることができる。例えば伊藤若冲の代表作「仙人掌群鶏図」は、重厚な金地の襖（ふすま）いっぱいにはサボテンとニワトリを組み合わせ大胆に描き上げている。巨大スクリーンではニワトリの羽根や脚の細部までを映し出し、若冲の超絶技巧をつぶさに見ることができる。

画像の細部まで巨大スクリーンに映し出すためには、こういった手法が取られたのか。制作された映像データは、実際の浮世絵や屏風図を1200dpi（ドット/インチ）という高解像度で多分割撮影した画像をつなぎ合わせている。一般にWebで表示される解像度の目安は72dpi、雑誌やカタログなど紙にフルカラー印刷する場合は350dpi程度なので、1200dpiというのがどれほど高解像度かが想像できるだろう。こうして制作した映像データを4Kのプロジェクター6台で3面スクリーンに映し出すことで、迫力ある映像体験を実現しているのだ。



観客を取り囲むように設置された3面ワイドのスクリーンは間近から見上げても上部まで鮮明で、安土桃山時代から江戸時代を生きた絵師たちの息遣いを感じさせる（写真はテスト投影の様子）

映像イベントで活躍する マウスコンピューターのDAIV

この類を見ない映像イベントを支える機器の1つがマウスコンピューターのクリエイター向けPC「DAIV」だ。DAIVは「Dynamic Approach Imagery of Visual」の略称。写真などの画像処理や映像制作、イラスト作成、PCを使用した音楽制作（DTM）、3次元のコンピュータグラフィックス（3DCG）、仮想現実（VR）など、あらゆるクリエイティブ作業に最適な選択肢を提供し、多くのクリエイターから支持を得ている。

イベント「巨大映像で迫る五大絵師」には、映像シアターで本編を見る前の観客に対して、それぞれの作品の歴史的背景、絵師の紹介や見どころなどを紹介する「解説シ

ター」があり、そこでDAIVが使われている。DAIVから4K素材の映像データをHDMIで接続した4Kプロジェクターに送出し、330インチのスクリーンに映像を映し出す。

解説シアターでも、本編の映像と同じように高解像度の映像を流し続ける。PCには、大容量の映像データを流し続けても動作が遅くなったり、停止したりすることのない高い性能と信頼性が求められる。

映像制作業界を席巻するWindows搭載PC

これまではクリエイティブ用途として制作現場ではアップルのMacが利用されることが多かったが、ここ1、2年で急速にWindows 10搭載のPCに置き換わりつつあるという。

主催社の1社であるフジアールの小西裕介取締役・イベ

「巨大映像で迫る五大絵師 — 北斎・広重・宗達・光琳・若冲の世界 —」で、映像制作と映像送出を担当したメンバー



「巨大映像で迫る五大絵師 — 北斎・広重・宗達・光琳・若冲の世界 —」では、解説シアターでの映像送出にマウスコンピューターのDAIVが利用されている。大容量の映像データを安定して送出するには高速のCPUとGPUを搭載したDAIVが最適という



イベントの運営スペースでは複数のPCを並べ、長時間にわたって映像の送出をするため、PCには高い信頼性が求められる

ント事業部長は「今回のイベントで利用するだけでなく、将来にわたってノンリニア編集などの制作用途にも使えるよう、全てを最高の仕様でカスタマイズしたフルオプションのDAIVを購入しました。4K動画を扱うようになってから、Windows搭載の高性能PCが映像制作現場には急速に普及しています」と話す。

選択したのはDAIVシリーズの中でも4K動画編集から特殊効果処理まで快適に対応できるクリエイター向けハイエンドノートPC「DAIV 7N」。2020年販売モデルの標準仕様からカスタマイズして、CPUはインテル製Core i9-10900K、GPUはエヌビディアのGeForce RTX 2080 SUPER/8GBを搭載、メインメモリーを標準の32GBから64GBに、ストレージは1TBから2TB SSDに増強した。ディスプレイは17.3型4K液晶 (Adobe RGB比100%、非光沢) で、最新の無線LAN規格のWi-Fi 6 AX1650 (IEEE 802.11ax/ac/a/b/g/n 最大2.4Gbps対応) とBluetooth5モジュールを内蔵する最先端PCだ。*

解説シアターではDAIV 7Nを1台使用し、会期中は20分の解説動画を30分ごとに繰り返し再生を続ける。最近のイベントでは、制作した大容量の映像データを配信したり送出するだけでなく、イベントの現場でリアルタイムにプログラミング編集をしたり、リアルな映像と仮想的(アンリアル)な映像をその場で組み合わせた映像処理作業を行うことがある。こうした用途にはよりクロック数の高いCPUや高性能GPUを搭載したDAIVのような高速処理PCが求められる。

YouTubeなどでの動画配信が一般的になり、Windows対応の映像編集ソフトや周辺装置も増えていることから、今後も映像編集などの用途にWindows搭載PCの需要は



今回のイベントでも使われているマウスコンピューターのクリエイター向けハイエンドノートPC「DAIV 7N」

高まると見られる。

YouTubeなど映像配信などで DAIVの人気は高まる

今回の映像送出運営を担当する国際クリエティブの営業部係長 佐々木亮氏は「4Kの映像データの送出には第一にGPU性能が高いPCが必須です。高い処理性能も必要なため高クロック数のCPUも重要になる。マウスコンピューターは最新のCPU/GPUが発表されるといち早く搭載製品を発売するため、映像業界では今、DAIVの人気は非常に高いです」と話す。

今回のイベントで使用しているDAIV 7NはノートPCだが、高性能のデスクトップPCと同じような使い方ができるという。こうした映像イベントは仮設の運営スペースを使って作業するため、いくら高性能でも現場で急な編集作業が出たときには、デスクトップよりノートPCが便利である。それだけに性能の高いノートPCの人気は高く、発売されればすぐに入手するといった映像制作会社は多いという。今回のイベント準備でも、デモンストレーションを

フジール取締役の小西氏は「映像イベントや制作現場で快適に作業をしてもらえるように、高性能なPCを準備することは重要」と話す



* 2021年発売モデルは、インテル Core i9-11900K、GeForce RTX 3080 Laptop GPUを搭載



「4K動画を扱うようになってから、映像業界はWindows搭載PCが急速に普及している。マウスコンピューターには今後も最先端のものがったPCを提供して欲しい」と話すフジアールの小西氏とインターナショナルクリエイティブの佐々木氏

行う現場で、本来デスクトップPCで編集する作業が急ぎょ発生したが、ストレスなく編集作業が行えたようだ。

インターナショナルクリエイティブでは、今回の「巨大映像で迫る五大絵師」展以外にもアイドルグループのライブイベントでDAIVを利用した。「新型コロナウイルス感染症の対策で、最近のライブイベントは無観客のオンライン配信を行うことが多いため、観客を飽きさせないように拡張現実 (AR) の演出をすることが増えました。こうした複雑なデータ処理をした映像演出にもDAIVは向いています」と佐々木氏。

大容量の映像データを格納して配信するためのメディアサーバーを操作するには高性能なGPUは欠かせないため、映像制作現場では最新GPUを搭載したPCを真っ先に発売するマウスコンピューターに対する信頼は厚い。他のPCメーカーも最新CPUやGPUを搭載したPCを販売しているが、実際に発売されるまでには時間がかかり、最先端の

インターナショナルクリエイティブ営業部係長の佐々木氏は「最新のARを活用した映像配信などでもDAIVは大活躍している」と話す



仕様を求める映像制作現場のスピード感に合わない面があるという。

インターナショナルクリエイティブの佐々木氏は「誰も見たことのないような最先端のイベントを実現するためにも、いち早く最新スペックのマシンをリリースするマウスコンピューターにこれからも期待しています」と語った。

法人のお客様 お問い合わせ

TEL 03-6833-1041

FAX 03-6739-3821

■受付時間

平日 9時～12時/13時～18時

土日祝 9時～20時